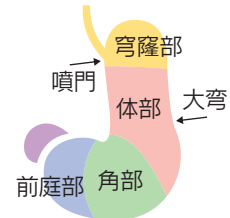





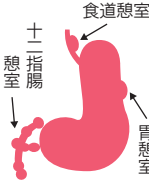



胃検診レントゲン所見の解説

胃の検診結果についてご理解いただくために図解します。



辺縁不整	バリウムで造影された胃の壁は滑らかな曲線を示していますが、辺縁不整は壁が「さざ波」のように小さい凸凹や大きい凸凹が見えるものをいいます。これは胃が荒れていたり伸縮性が悪くなっている時に見られる変化です。 例：慢性胃炎 等	
辺縁硬化	胃は伸び縮みすることにより食物を腸に送り出します。バリウムで造影された胃の一部に伸縮性のないひきつれが見える状態をいいます。 例：慢性胃炎・胃がん	
レリーフ不整	レリーフが異常な交わり方をしていたり、太くなったり、やせたりして見えることや、また蛇行したりしているものを不整といいます。 例：胃炎・胃潰瘍・胃がん	
レリーフ集中	ある種のへこみがあり、その箇所に向かってレリーフが集まっているように見えることをいいます。潰瘍や潰瘍の瘢痕があると見えることが多いです。 例：胃潰瘍瘢痕・胃がん	
レリーフ肥大	レリーフが太くなっている状態をいいます。炎症が疑われます。 例：慢性胃炎・リンパ腫 等	
レリーフとは	胃の内側は粘膜で覆われており、その粘膜のヒダをレリーフといいます。レリーフは胃の内側をほぼ同じ太さで平行に胃の入口より出口に向かって走っています。	
アレア不整	胃の粘膜の不整、ただれている状態をいいます。胃が荒れていたり、炎症のために見られる変化です。 例：慢性胃炎・胃がん 等	
小弯短縮	上側を小弯、外側を大弯といます。ゆったりとした胃の形のバランスがくずれ、小弯が縮んでいるように見えることをいいます。 例：慢性活動性胃炎・胃潰瘍瘢痕 等	
隆起性	胃の壁が厚くふくらんでいるように見える状態と、イボのようなものがある状態をいいます。 例：ポリープ・タコイボびらん(ポリープの中には良性のもの悪性のもの両方含まれます)	
陥凹性	胃の壁にくぼみができた状態をいいます。 例：胃潰瘍・胃がん	

胃角開大	<p>胃の内側にある曲がり角を胃角と呼びます。胃角が開くということは、その付近に何らかの原因があって胃角がつかれない状態をいいます。</p> <p>例：潰瘍癒痕・胃がん</p>	 <p>胃角開大</p>
狭窄	<p>通常ふくらむべき場所が狭くなっている状態をいいます。これは胃の壁が厚くなっている状態です。</p> <p>例：慢性活動性胃炎・潰瘍癒痕・胃がん</p>	 <p>幽門狭窄</p>
変形・拡張不良	<p>胃や十二指腸というのは、だいたい決まった形や大きさをしています。胃が正常にくらべ大きくなったり、小さくなったり、また胃の形が変化しているように見えることをいいます。潰瘍の癒痕化等により起こってきます。</p> <p>例：胃・十二指腸炎、潰瘍癒痕</p>	 <p>バランスの変化 胃体部の変化</p>
ニツシエ	<p>胃壁の欠損(くぼみ)にバリウムが溜まって作られる像のことをいいます。</p> <p>例：胃潰瘍・胃がん</p>	 <p>ニツシエ</p>
陰影欠損	<p>X線写真上でバリウムによって造影された胃の形が一部けずり取られたように見えることをいいます。</p> <p>例：胃がん</p>	 <p>陰影欠損</p>
憩室	<p>食道、胃、十二指腸の中に小さな袋をもったものです。病気ではありませんので心配する必要はありません。生まれつきのものが多いです。しかし、まれには食べた物が中に長くたまって炎症を起こしたりすることがありますので、年1回検査をすることが望ましいです。</p>	 <p>憩室 食道憩室 十二指腸憩室 胃憩室</p>
十二指腸球部不充	<p>胃から十二指腸へバリウムが排出されず、十二指腸球部が造影されない状態をいいます。十二指腸球部不充は、それ自体は病気ではありません。実際には異常のない場合が多いのですが、中には十二指腸の病気がある場合がありますので、できるだけ精密検査を受けられることをおすすめします。</p> <p>例：十二指腸炎・潰瘍</p>	 <p>十二指腸球部</p>
萎縮性胃炎		<p>症状は乏しいことが多いです。ほとんどの場合、ピロリ菌の感染で起こります。胃がんの発生率が高くなるといわれていますので、定期的に胃内視鏡検査を受けてください。ピロリ菌検査を受けたことのない方は、検査をお勧めします。</p>
ピロリ菌	血中抗体検査	<p>血液中のピロリ菌抗体を調べます。過去にピロリ菌除菌治療を受けたことのない方で、10u/ml以上はピロリ菌に感染している可能性が高いです。ピロリ菌陽性の場合、除菌治療の必要性について専門医にご相談ください。</p>
	便中抗原検査	<p>便中のピロリ菌抗原を調べます。現在の感染の有無が分かります。ピロリ菌陽性の場合、除菌治療の必要性について専門医にご相談ください。</p>
ペプシノゲン検査		<p>胃粘膜の萎縮の程度をみる検査です。1/2比が3以下の場合は萎縮が進んでいます。萎縮性胃炎は胃がんのリスクファクターです。1/2比が3以下の方は定期的に胃内視鏡検査を受けてください。ピロリ菌除菌治療後は萎縮が進んでいても、1/2比は3以上になりますのでご注意ください。</p>